

第40回鴨叡会・生命分子化学科セミナー 報告

- 日時：平成29年11月17日14時30分～16時
- 場所：京都府立大学稲盛記念会館106号室
- 講師：栗原 達夫 先生（京都大学 化学研究所（分子微生物科学領域）教授）
- 演題：「細菌生体膜研究の新展開：膜リン脂質の機能と膜小胞」
- 参加者：学部学生、大学院生、教員
- 参加者総数： 80名

第40回鴨叡会・生命分子化学科セミナーを開催した。講師に京都大学化学研究所栗原達夫先生をお迎えして行った。生命分子化学科および農学生命科学科の2回生のほか、四回生、院生、教員などで、会場が満員になる程盛況であった。

本講演では、細菌細胞膜におけるリン脂質のアシル鎖構造特異的な生理機能に関する講師らのグループの最近の研究成果を紹介して貰った。特に、あらゆる生物の細胞はリン脂質二重層を基本構造とする膜で囲まれており、このリン脂質には極性頭部と疎水性尾部のいずれにも大きな構造多様性があるが、近年、そのような多様性の生理的意義が明らかにされつつあり、講師らが取り組んでいる好冷性細菌のスクリーニングから培養、細胞を構成する物質の特徴などについて、丁寧に説明をして頂いた。また、演者のグループが最近見いだしたユニークな特性をもつ膜小胞生産性細菌について、その膜小胞の特性と形成機構に関する研究の現状を紹介して頂き、講演の後にはたくさんの質問があり、一つずつ答えを解説頂いた。その後でも、引き続き質問したい学生が残る場面も見られた。

